

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

|                   |                                        |
|-------------------|----------------------------------------|
| 論題(和文)            | 知財見聞録 PICMET年次学術研究発表会で技術経営を再考          |
| Title(English)    |                                        |
| 著者(和文)            | 田中義敏                                   |
| Authors(English)  | Yoshitoshi Tanaka                      |
| 出典(和文)            | 発明, Vol. 113, No. 12, pp. 28-29        |
| Citation(English) | INVENTION, Vol. 113, No. 12, pp. 28-29 |
| 発行日 / Pub. date   | 2016, 12                               |



# 知財見聞録

## PICMET年次学術研究発表会で技術経営を再考

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

### 国際会議での研究発表

国際学術会議PICMET2016(Portland International Conference on Management of Engineering and Technology)に2016年9月4～8日の日程で研究室の卒業生と一緒に参加してきた。

### 世界最大級の技術経営国際会議

PICMETは、国際会議を通じて技術経営(Management of Technology; MOT)に関する情報の普及を図ることを目的として、1989年に設立された非営利団体である。

この団体は、Board of Directors(理事会)とExecutive Committee(執行委員会)を備えており、組織体制および活動規模からみて、技術経営分野の国際会議としては世界最大級といっている。

学識経験者や企業経営者が参加しているAdvisory Council(諮問委員会)は、われわれを取り巻く国際的課題や技術経営の決定要因に関して多くの貴重な知見を提供している。設立以来、多大な業績を挙げてきた国際会議と評価できる。

PICMETは初めての国際会議を1991年に開催し、その後は多くの研究者や実務家の要望に応えるため、隔年で米国ポートランドにおいて実施することとした(奇数年に開催)。2004年からは偶数年にポートランド以外の地域

で行うようになり、毎年の開催と世界各地への普及という成果を挙げてきた。

### 最近ハワイ開催の研究発表会が増えている？

2016(偶数)年の今回は、なんとハワイでの開催であった。最近は多くの国際会議がハワイを舞台として開催されているが、実は難しさもある。

大都市での開催と異なり、当地に所在する企業が少なく、国際会議開催の資金面で苦労が多いようである。案の定、PICMET2016への寄付企業は驚くほど少ない状況だったという裏話も聞こえてくる。

とはいうものの、参加する発表者側からすると美しい環境のなか、また日頃訪れる機会がない地域での開催は魅力的なものも事実である。今年も400名を超える参加者を得て大盛況のなかで技術経営について多角的視点から多くの研究発表と活発な議論が行われ、大成功を収めたといえる。

### 価値ある社会を創造する技術イノベーション

PICMET2016のテーマは“Technology Management for Social Innovation”であった。

社会の発展のために技術が果たす役割はますます大きくなっている。存在する課題を解決し価値ある社会を創造していくために、多くの場合において

技術イノベーションは重要な役割を担っている。

技術経営人材こそがグローバル社会においてより豊かな世界を創造していく役割を担っているとのメッセージが掲げられた。

### 知的財産分野の研究発表も増加

今回は全体で約300件の研究報告がなされた。そのうち、知的財産分野の報告は各国から合計23件あり、私の研究室からは以下の3件を発表できた。

1. “How Can We Predict the New Products and Services by Using the Trademark Information and the Patent Information?”
2. “Analysis of the Matching between Customer Needs and Patent Application Portfolio about Unmanned Aerial”



受付をして会場へ

## 3. “Preliminary Study on Why University Researchers Do Not Utilize Patent Information for Their Academic Research in the Field of Science and Engineering in Japan”

### 社会、世界に飛び出せ！ 技術経営人材

日頃は学内での議論に終始してしまうが、国際会議で発表することは多くの国から集まった異なる視点を持つ人材との議論ができ、広く社会全体からの評価・批判をいただける。実は、教育機関や学術団体にとってはこれらの点が非常に重要なことだと思う。

常に広く社会を見ると同時に、日々進行する社会現象に鋭く目を向ける。また、総論として全体を俯瞰する視点と、各論を深く突っ込んでみる視点の

両方が必要である。

社会で起こっている現象を解明する使命を持つ技術経営においては、国際会議をはじめとして社会、世界に飛び出していくことが重要であると日頃から思っている。この点を、今回PICMETに参加した学生も感じてくれることと確信する。

### 企業の現場で起きている現象を説明する技術経営

PICMETのCEOであるDundar Kocaoglu博士の言葉を借りると、技術経営とは、イノベーションの実現を中心として企業競争力を向上させるために技術を有効活用する企業経営のことで、高度技術社会における新しい経営学として位置づけられる。

米国では1980年代から注目され、高等教育機関に多くのMOTコースが

設置され企業競争力強化につなげてきたが、時代は常に進化している証拠であろうか、MOTコースに人材を派遣してくる企業数が減少してきている。

技術経営は企業の現場で起きている事象を説明できなければ学問としての存在意義はない。しかし、学問としての手法や領域が発展してくると企業の現場で起きていることに目が届かなくなることがある。技術経営とは、このように理論と実践の狭間に存在していなければならない学問である。

### 理論と実践の境界にある知的財産マネジメント

知的財産分野の研究も同様のことがいえるのではないかと。知的財産をどのように保護すべきであるかという法律制度としての研究領域に加え、知的財産の活用に関する研究領域が広がってきている。すなわち、法律制度的な理論研究と知的財産権が社会のなかでいかに活用され管理されなければならないかという研究が重要になってきた。

これも技術経営と同様にビジネスの現場と理論の狭間に位置づけられる。今後のさらなる研究の進捗が期待されている領域ではないだろうか。

常に変化する国際的な社会経済環境のなかで、知的財産を活用して世界のリーダーとして競争力を向上させ、その力を社会全体の豊かさにつなげていくことが期待される場所である。



講演する筆者



発表を終え、研究室卒業生と記念撮影



会議予定の看板の前で



夕暮れのワイキキ